



校長室だより

黒部市立村椿小学校

令和8年7月15日

文責：校長 齊木 裕

努力は、裏切らない

～第1回校長杯計算大会より～

村椿小学校では、学期ごとに計算大会を実施しています。ねらいは、下記の通りの3つです。

- ・ 集中力を高める。
- ・ 1位数+1位数のたし算・ひき算をできるだけ速く正確にできるようになる。
- ・ 全校で同じ問題に挑戦し、競い合ったり、互いの努力を認め合ったりする。

先日、第1回校長杯計算大会「たし算の部」を行いました。朝の会の時間に行い、2分間で何問を解くことができるか挑戦しました。子供たちは、とても真剣に問題を解いていました。先生方もオープン参加とし、各教室や職員室で子供たちと同じ時間に取り組みました。



子供たちの話を聞いていると、この計算大会のために日々努力していることが分かってきました。校長室前に練習問題を用意しておく、いつの間にかなくなっています。子供たちが、「練習プリントがなくなったので、もっと印刷してください。」「すきま時間に行うので、たくさんください。」と言ってきます。また、登校時やランチルームでの子供たちの会話の中に「100問以上解けるようになったよ。」「160問くらい解けるようになってきたよ。」とうれしそうに話す子供たちもいました。子供たちは、練習すればするほど、解ける問題の数が増えることに達成感を感じて、さらに努力をしようと思っているようでした。最近読んだ本の中に、下記の一節がありました。

練習を繰り返すことで、それを処理する脳細胞（ニューロン）が活動し、それらをつなぐシナプスが強化される。シナプスは一度でもつながった痕跡を基本的には全部残していると考えられる。つまり「忘れちゃった」と思っても、シナプスでつながった言葉は「意識」に上がってこないだけで、脳の中に「無意識」という倉庫にしまっている。同じ刺激を繰り返すことでシナプスが強化され、「意識」に上がってくる。

【脳神経外科医 東島威史著 「不夜脳」】

つまり練習すればするほど、計算でいえば、速く確実にできるようになっていくことが医学的に証明されています。計算大会の子供たちの学びから、繰り返しの練習の大切さを実感しました。今週は、「ひき算の部」を行います。